

D-DECK、ここが、ここが×

前説

YAMAHA は D-DECK を新キーボードという位置づけにしていますが、以下はエレクトーンとしてとらえた私見です。ですから STAGEA D-DECK PACKAGE を前提としています。×はエレクトーンとして捉えたときの注意だと考えて下さい。もともとバンドの中での使用を考えているので欠点ではありません。勝手気ままな内容ですから、あくまでも判断はご自身でお願いします。

持運びがラク

乗用車に積める。女性一人でもセッティング可能。スタンドが折りたためる。

新メニュー、ライブパフォーマンス

瞬時にカッコイイ音色セットが選べる。カスタム、スタンダードにはない。

AUX OUT に SUB OUT を導入

パート別に出力可能。外部エフェクトも可。カスタム、スタンダードにはない。

下鍵盤が61鍵

音域の広さは表現力の広さ。

USB フラッシュが2個挿せる

スタンダードは1個。2個あればデータの移動もラク。LAN でひとつふさがっても OK。

オルガンエフェクトでパラメーター設定可能

ハモンドオルガンを凌駕するか？カスタム、スタンダードにはない。

セカンドエクスプレッションペダルがある

ピッチベンドが使えるのはかなりのアドバンテージ。スタンダードにはない。

インターネットダイレクト接続に専用サイトがある

もちろん従来のサイトでデータのダウンロード、楽器のアップデートもできる。

× スピーカーなし

外部スピーカー設置には場所が必要。

× ニーレバーなし

ピアノ系の音色でサスティンを使う場合は、別売りのフットスイッチが必要

× レジストセッティングはすべて液晶ディスプレイの中

ブリリアンスやリバーブなど、咄嗟の変更は無理。

名称のちがいに注意

レジストレーションメニュー

キッズ ベーシック

ドラムキット

EL キット マルチキット

MDR でのソング読み込み

EL オリジナル

XG XG

EL 変換 TO EL 変換

ELS 変換 FROM EL 変換